

## 1 学校教育目標

- 広い視野に立ち、深く考える人になろう。
- あたたかい思いやりを持ち、心にうるおいのある人になろう。
- 進んでものごとを行い、力いっぱい努力する人になろう。
- 健康なからだをつくり、明るい心を持った人になろう。

## 2 めざす学校像、児童・生徒像、教師像

○学校像	安心・安全な学校 誇れる学校
○児童・生徒像	自律（自己をコントロールする力）心もち、他者と協働（多様性を認め合い、自己の役割を果たそうと努力すること）できる生徒
○教師像	学び続ける教師 信頼される教師

## 3 学校の現状及び前年度の成果と課題

### ○学校の現状

- (1) 落ち着いた学校生活環境の中で教育活動が行われ、生徒が学校行事や生徒会活動、委員会活動、部活動に熱心に取り組んでいる。
- (2) 基礎基本の学力定着を目指し、ICT機器の活用、朝学習、朝テスト、補充学習を実施している。
- (3) 教職員が熱心に教育活動に取り組んでいる。
- (4) 開かれた学校づくり協議会、PTA、おやじも会と協力連携した行事運営が行われている。地域行事への生徒・教員の参加も再開した。

### ○前年度の成果と課題

- (1) 生徒の学校生活アンケートで「学校に行くのは楽しい」が全学年平均 85.5%、「授業中は真剣に取り組んでいる」が全学年平均 87.3%であった。しかし一方で、「不得意なこと、苦手なことでも自ら進んで取り組もうとしている」「わからないところはそのままにせず、わかるまで努力をしている」に対する肯定的な意見は70%台であり、特に1年生の数値が低く、「努力」や「挑戦」することへの意欲を高める必要がある。
- (2) 学力向上の基本である、生活規律の徹底を図る必要がある。

## 4 重点的な取組事項

	内 容	実施期間（年度） R:令和				
		R4	R5	R6	R7	R8
1	学力向上アクションプラン	○	○	○	○	○
2	ICT機器やアプリケーションを活用した学力の向上、資質・能力の育成			○	○	
3	自律と協働を目指した生活規律の定着と特別支援教育の充実			○	○	

## 5 令和6年度の重点目標

重点的な取組事項－1		学力向上アクションプラン								
A 今年度の成果目標		達成基準 (目標通過率)		実施結果 (通過率結果)		コメント・課題		達成度 ◎○△●		
ICT 機器等を活用した授業実践		年度末学力調査正答率65%		自己評価の際に記入						
B 目標実現に向けた取組み										
新・継	アクションプラン	対象学年 実施教科	頻度・ 実施時期	具体的な取り組み内容 (誰が、何を、どのように)	達成確認 方法	達成目標 (=数値) (いつ・何を・どの程度)	実施結果	コメント・課題	達成度 ◎○△●	
1 新規	ICT 機器及び各種アプリケーションの活用	全学年 全教科	通年	(1)教育活動全般での ICT 機器の活用の推進 (2)Google Workspace for Education 等の有効活用	生徒授業アンケート 授業観察等	教員の活用に対する肯定的意見70%以上	自己評価の際に記入			
2 新規	AI ドリルの有効活用	全学年 5教科	通年	(1)5教科において積極的に活用する。 (2)AI ドリル活用における評価方法を検証する。	授業観察等 Qubena マネージャーによる確認	MAU 率5教科平均50%以上				
3 新規	足立スタンダードの実践	全学年 全教科	通年	全教科の授業において「足立スタンダード」の徹底を図る。	生徒授業アンケート 授業観察等	めあてとまとめ、主体的な学習に対する肯定的意見が平均80%以上				
4 継続	教員の授業力向上	全学年 全教科	通年	(1)授業力向上研修の実施 (2)評価評定に関する研修の実施等	生徒授業アンケート 授業観察 面談	わかりやすい授業であるの肯定的意見が平均70%以上				
5 新規	学習習慣の確立	全学年 5教科	通年	(1)金曜日テスト (2)放課後補充 (3)家庭学習ノート (4)各種コンテスト	区学力調査結果 各種コンテスト	通過率65%以上 合格率80%程度				

重点的な取組事項－２		ICT 機器やアプリケーションを活用した学力の向上、資質・能力の育成			
A 今年度の成果目標		達成基準	実施結果	コメント・課題	達成度
全教員が ICT 機器や Google Workspace for Education 等のアプリケーション活用した授業実践を行う。		生徒授業アンケートにおいて、「ICT 機器や様々な教材を活用して分かりやすい」の肯定的評価が平均 70%以上	自己評価の際に記入		
B 目標実現に向けた取組み					
項目	達成基準	具体的な方策	実施結果	コメント・課題	達成度
組織の再編成	ICT 活用に関する委員会を設置し、学校全体として組織的に活用促進を推進。教育活動全般において積極的に活用する。	(1) 生徒授業アンケート (2) 年度末学校評価 (3) 授業観察等	自己評価の際に記入		
GIGA スクール推進校としての実践	教員研修の充実	(1) Google 社との連携に基づく研修の実施 (2) 教員のスキルに応じた研修の実施 (3) 授業での ICT 活用の効果検証			
	一人一台端末の有効活用	(1) 教科・領域で、タブレットの積極的な活用を推進する。 (2) 年 2 回の公開授業に向けての研究を学校全体で実施 (3) 生徒授業アンケート (4) 年度末学校評価 (5) 授業観察等			

重点的な取組事項－3		自律と協働を目指した生活規律の定着と特別支援教育の充実			
A 今年度の成果目標		達成基準	実施結果	コメント・課題	達成度
自己をコントロールする力を持ち、多様性を受け入れ、自らの役割を果たそうと努力する生徒の育成		学校生活アンケート 区学力調査生活アンケート 学校評価	自己評価の際に記入		
B 目標実現に向けた取組み					
項目	達成基準	具体的な方策	実施結果	コメント・課題	達成度
Web-QU、NINO等の客観的データに基づく生徒理解	各種研修の実施と充実	(1) 年2回 Web-QU 研修の実施 (2) NINO の取り組みと分析研修の実施 (3) 生徒理解研修の実施	自己評価の際に記入		
特別支援教育の充実	支援が必要な生徒を早期に見出し適切な支援につなげる。	(1) 特別支援教育部会の定期的な開催 (2) 巡回心理士と連携を図り、支援の必要な生徒を見出す。 (3) 特別支援教室の環境整備を進める。			
生活規律の徹底	コロナ禍での決まり等が学校生活の中に残っており、時程を含めた見直しを進める。	(1) 時程の変更 (2) 衣替えの撤廃 (3) 生活指導部会の定期的な開催			
不登校生徒への組織的な対応	教育相談部会を中心とした組織的な対応を進める。	(1) 特別支援教育部会の中で、不登校対応中心の会を定期的に設定する。 (2) 別室登校について再検討する。			

## 6 まとめ

### (1) 今年度の成果と次年度に向けた課題及び解決の方向性

自己評価の際に記入します。  
経営計画の策定段階では、このページは行数を減らして圧縮したり、ページ自体を削除したりした上で、公表していただいても差し支えありません。

### (2) 保護者や地域へのメッセージ

### (3) その他（学校教育活動全般について）